

# 工業部会 通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社  
〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3  
商工会館本館1階  
※プリントしてご自由にお読みください。



## 工場内で「展示会」 向洋技研が初の試み



テーブルスポット溶接機製造、向洋技研(緑区橋本台)は、本社工場1階を活用し、5月20日からの約1カ月間、プライベート展示会を開催した=写真。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、国内外への展示会出展が制限される中、お客さんに実機を見てもらう機会を作ろうと企画した。感染拡大防止のために完全予約制としたが、期間中は全ての時間帯が埋まってしまう盛況ぶり、即決で売れた製品もあったという。遠方で来社できないお客さんに対してはオンラインを活用。海外からの参加もあった。

予約埋まり「即決」も

「BIG MAY 2021 in Koyogiken」と銘打った同展示会では、同社のテーブルスポット溶接機「マリスポート」全8モデルが並べられた。通常の展示会では出展スペースが限られているため、全モデルが一堂に展示されたのは初めてという。

「これまではカタログを見て、展示会場で実機を確認し購入してもらっていましたが、今はできません。それならば、自分たちで展示会をやる」と1カ月かけて準備した。

「甲斐社長は『開催してよかったと思いません。オンラインで即決した案件もありました。今後も定期的に企画していきたい』と思っただけです」と手応えをつかんでいた。

なお、同社のテーブルスポット溶接機は、1988年の発売以降、国内外19カ国で累計3000台を納入。現在では、溶接時間が0.01秒で溶接痕もなくきれいに仕上げられる独自開発の「高速溶接技術」も搭載されている。

## トラック向け機械加工 ノウハウ拡販へ

清水原ポ  
清コ

機械加工、清水原コーポレーション(緑区田名)は、トラック関連部品で培ってきた量産向け機械加工のノウハウを拡販する。「既存の設備でどんな部品が加工できるか、可能性を探っていきま」(山口友彦社長)としており、工作機械や半導体製造装置関連部品の

「現在にも乗り出した。現在はドラムやハブ、ハブドラム、ディスクローター、リングギヤを中心に加工。いわゆる『丸物』を得意とする。中でも大手トラックメーカーの有力車種のブレーキ関連部品の一部は、同社がほぼ100%供給。ニッチだが高い市場シェアを持つ。生産品はいずれも量産物だが、トラック業界は国内生産が手堅いことから、現在の稼働率は85%割という。」

「乗用車とは異なり、トラックは国内生産が盛んです。中・小型のトラック市場は日本独特で、海外はむしろ大型トラックの市場だからです。トラックが国内に存在する限り、部品加工の需要が

「当社が加工する丸物を使用する分野は多いはず」と山口社長。さらなる成長に向け舵を切っている。

### 工業副部長 コラム

## 経営者と 「感動力」



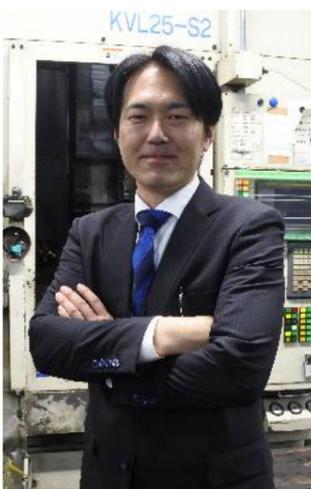
今回は「感動力」についてお話しします。先日、吉永小百合主演の映画「いのちの停車場」を観てきました。そこには、職場同志愛や姉妹愛、夫婦愛、親子愛、幼なじみ愛、昔の恋人愛、郷土愛、患者への愛…。さまざまな愛があり、それらが一つ一つ丁寧に描写されており、まさに脱帽でした。久しぶりに、悲し

みではなく、感動からの涙でハンカチを濡らしました。もう一つ、映画の話です。1942年制作の「カサブランカ」です。ナチスドイツ占領下のパリと、仏領モロッコカサブランカを舞台にした大人のラブロマンスです。カッコよすぎるハンフリー・ボガードと、美しいイングリッド・バーグマンの配役、両者の目、顔、動きを観ているだけで魅了されます。さらに脚本と時代設定から醸し出される白黒フィルムも、この映画を素晴らしいと思っています。

この映画のテーマも、同じく「愛」です。男女の愛、夫婦愛、同志愛、望郷の念からの郷土愛、国家愛などです。フランス国歌、ラ・マルセイエーズがかかるシーンは毎回、涙腺が緩みます。さて、このような映画から言えることは、人に感動力を与えるには、その根底に「愛」があるということ。もちろん、相手に対する、何気ない「気遣い」も欠かせません。

## 「愛」を忘れず持ち続けて

(湘南デザインCEO / 公認心理師・松岡康彦)



同社の山口友彦社長



さあ、5年後の未来を見に行こう。

## 新規会員募集中

## 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会